

ジョセフ・アルバーズの授業 色と素材の実験室

Josef Albers: Pedagogical Experiments



貸出図版1.

イエール大学で色彩の授業を行うアルバーズと学生 1952年 撮影者不詳
Courtesy of the Josef and Anni Albers Foundation

会 期	2023年7月29日(土) - 11月5日(日)
開館時間	9:30-17:00 (入館は16:30まで)
休 館 日	月曜 (ただし9月18日、10月9日は開館)、9月19日(火)、10月10日(火)
入 館 料	一般1,800円、学生・65歳以上1,600円、高校生以下無料 障害者手帳をお持ちの方と付き添い1名まで無料
会 場	DIC川村記念美術館 (千葉県佐倉市坂戸631)
電 話	掲載用=050-5541-8600 (ハローダイヤル) 取材用=043-498-2672 (直通)
主 催	DIC株式会社
特別協力	ジョセフ&アニ・アルバーズ財団、東京国立近代美術館
協 力	エヒメ紙工株式会社、グリム・エヒメ株式会社、株式会社竹尾、DICデコール株式会社
後 援	千葉県、千葉県教育委員会、佐倉市、佐倉市教育委員会

概要

ジョセフ・アルバーズ（1888-1976）は画家、デザイナー、そして美術教師として知られています。ドイツで生まれた彼は、造形学校バウハウスで学び、のちに教師となって基礎教育を担当しました。同校の閉鎖後は渡米し、ブラックマウンテン・カレッジや、イエール大学に勤務。戦後アメリカの重要な芸術家たちを育てました。

アルバーズは授業の目的を、「目を開くこと」だと述べています。彼はただ知識を教えるのではなく、学生に課題を与え、手を動かして考えることを促しました。そうして答えを探究することで、色彩や素材のもつ新しい可能性を自ら発見させようとしたのです。そしてアルバーズ自身もまた、生涯にわたり探究を続けました。そこから生み出されたのが、バウハウス時代のガラス作品から、家具や食器などのデザイン、絵画シリーズ〈正方形讃歌〉に至る、驚くほど多様な作品群です。

本展ではアルバーズの作品を、彼の授業をとらえた写真・映像や、学生による作品とともにご紹介します。制作者／教師という両側面からアルバーズに迫る、日本初の回顧展です。

※会期中に一部展示替えがあります（前期：7/29-9/18 後期：9/20-11/5）

みどころ

- ① ジョセフ&アニ・アルバーズ財団の全面的な協力を得て実現する、日本初の回顧展。
国内初公開作品を含む絵画や関連資料など、約100点を展覧します。
- ② 画家としてのアルバーズのみならず、教育者という側面にもスポットライトを当てます。
実験的な授業をとらえた写真や映像、学生の作品もご紹介します。
- ③ アルバーズの出した課題に挑戦できるワークショップ・スペースを会場内に設けます。
学生を夢中にさせた彼の授業を、ぜひ体験してみてください。

1章 バウハウス — 素材の経済性（1920-1933）

ドイツのヴァイマールに創設されたバウハウスに、アルバーズは当初学生として、のちには教師として、閉校時まで携わります。教師として彼が主に担当したのは、専門教育に先立つ、造形のための基礎演習でした。現在ではとりわけ色彩への取り組みで知られるアルバーズですが、授業で一貫して重視したのは、素材の性質を把握し、効率よく扱う方法を習得することです。バウハウスではガラス画工房や家具工房でも教え、家具、食器などのデザインを手掛けるほか、ガラス作品も制作しました。



貸出図版2.
《破片の入ったグリッド絵画》1921年頃



貸出図版3.
スタッキング・テーブル 1927年頃



貸出図版4.
作者不詳 [バウハウスの学生]
《紙による素材演習》制作年不詳 (2023年再制作)
ミサワホーム株式会社

2章 ブラックマウンテン・カレッジ — 芸術と生 (1933-1949)

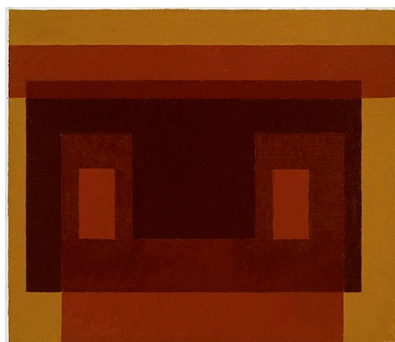
バウハウスが閉校してまもなく、アルバースは創立されたばかりの学校、ブラックマウンテン・カレッジから招聘を受け、妻のアニとともにアメリカに移住します。リベラルアーツ教育を目指した同校では、芸術がカリキュラムの中心に位置づけられていました。この新しい環境で、アルバースは自然物を素材として課題に用いるなど、より先進的な課題を授業に取り入れていきます。この地で過ごした約15年間は、抽象絵画や版画にも取り組み、後の展開につながる重要な時期となりました。



貸出図版5.
リーフ・スタディ I 1940年頃



貸出図版6.
作者不詳 [ブラックマウンテン・カレッジの学生]
マチエール (黄色い四角が塗られた石、紙) 1940年代頃



貸出図版7.
《3つの茶色+黄土色》1948-57年



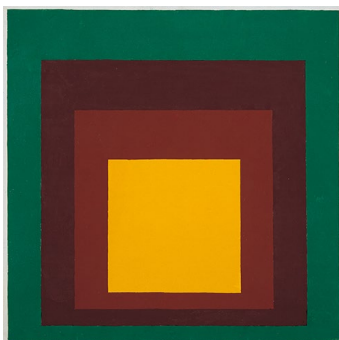
貸出図版8.
《プリズムのような II》1936年

3章 イェール大学以後 — 色彩の探究 (1950-)

1950年、アルバーズはイェール大学に着任します。この頃から、彼は色彩への取り組みで知られるようになっていきました。彼の色彩課程では、さまざまな色の錯覚を作り出すことが求められ、学生たちは試行錯誤しながら課題と向き合うことで、色彩をより正確に見て、選び出す経験を積みました。一方、この年から20年以上にわたって続けられた絵画シリーズ〈正方形讃歌〉は、正方形による決まったフォーマットに色彩を配置した作品で、隣接する色同士がさまざまな効果を生み出しています。色彩を移ろいやすいものと考え、そのはたらきを動的に捉えようとするアルバーズの探究が、ここには反映されているといえるでしょう。画家としての彼を一躍有名にしたこのシリーズとともに、主著『色彩の相互作用』（邦題：『配色の設計』）にも使われた学生作品を展示することで、アルバーズの色彩への取り組みを再考します。



貸出図版9.
《正方形讃歌のための習作：針葉樹の中心》
1961年 公益財団法人アルカンシエール美術財団 / 原美術館コレクション



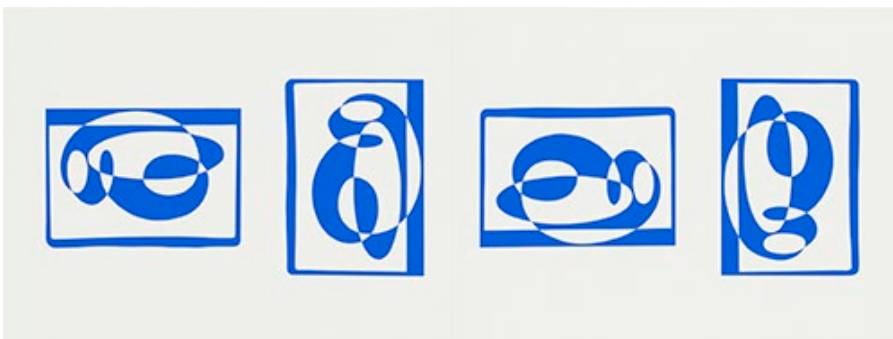
貸出図版10.
《正方形讃歌》 1952-54年
DIC川村記念美術館



貸出図版11.
作者不詳 [イェール大学の学生] 色彩演習
1958-60年頃
Courtesy of the Josef and Anni Albers Foundation

4章 版画集〈フォーミュレーション：アーティキュレーション〉(1972)

1972年、アルバーズは版画集〈フォーミュレーション：アーティキュレーション〉を出版します。過去に制作した作品を元にした、集大成ともいえるこの版画集から、本展では15点をご紹介します。各作品にはアルバーズ自身のテキストが付されており、それらをイメージと共に読むことで、彼の造形に対する思考や色彩への探求を追体験できるでしょう。



参考図版
《フォーミュレーション：アーティキュレーション》 第II集の2 (《アクアリウム》) 1972年 東京国立近代美術館 (後期のみ展示)

- 作者について記載のないものはジョセフ・アルバーズの作品
- 所蔵者について記載のないものはジョセフ & アニ・アルバーズ財団の所蔵
- © The Josef and Anni Albers Foundation / JASPAR, Tokyo, 2023 G3217 (図版 2, 3, 5, 7, 8, 9, 10, 12)
- Photo: Tim Nighswander/Imaging4Art (図版 2, 3, 5, 7, 8)

アルバースの授業に挑戦！（ワークショップ・スペース）

アルバースの課題に挑戦できる常設のワークショップ・スペースを設けます。実際に手を動かし挑戦してみると、色の不思議さや楽しさを再発見できることでしょう。ヒントとなる解説動画もご用意しています。

- 課題1 色のマジック：1つの色が2つに見える
- 課題2 3色の世界：同じ色から違う世界が生まれる
- 課題3 透明のトリック：透けていないのに透けて見える
- 課題4 ひだ折りの練習：しなやかな紙が立ち上がる

※アルバースと学生たちは、新聞、雑誌や包装紙など、身近なものを活用して課題に取り組みました。
本ワークショップでは色彩や印刷等に関わる4社からご協力をいただき、紙のアップサイクルにも取り組んでいます。
（協力：エヒメ紙工株式会社、グリム・エヒメ株式会社、株式会社竹尾、DICデコール株式会社）

会期中のイベント [詳細と申し込み方法は当館ウェブサイトでお知らせします](#)

講演会 | 要予約（定員35名）

① 7月29日（土）13:30-15:30

ブレンダ・ダニロウィッツ（ジョセフ&アニ・アルバース財団チーフ・キュレーター）

② 9月23日（土）13:30-15:00

沢山遼（美術批評家）

学芸員によるギャラリートーク | 当日受付

8月12日（土）、9月17日（日）、10月20日（金） 各日11:30-12:30

定時ガイドツアー | 当日受付

当館ガイドスタッフがコレクション展示を含めた館内の展示をご案内します。 毎日14:00-15:00

ワークショップ：インタラクシオン・オブ・カラー ——色の相互作用を体験する | 要予約（定員30名）

永原康史（グラフィックデザイナー、ジョセフ・アルバース『配色の設計』監訳者）

8月19日（土）13:30-15:30

ラーニング：アルバースの授業に挑戦！ | 当日受付（定員15名）

亀山裕亮（本展担当学芸員）

8月10日（木）、26日（土）、9月9日（土）、16日（土）、29日（金）、

10月9日（月祝）、21日（土）、28日（土） 各日11:30-12:15

※課題は毎回異なります

コンサート：サウンドミュージアム・オブ・テルミン | 要予約

ザ・プー＝街角マチコ（テルミン）、街角マチオ（ギター＆ボーカル）

10月14日（土）閉館後予定

- やむを得ず記載内容が変更になる場合があります。

図版掲載をご希望の方へ

貸出図版を下記よりダウンロードいただけます。

https://www.artpr.jp/kawamura_dic_museum/albers

- * 作家名・タイトル・制作年・所蔵者名および著作権クレジットを必ず明記してください。
- * 発行前にPDFで記事のレイアウトをお送りください。掲載内容の正誤確認をいたします。
- * 発行後、紙媒体は掲載物（又は表紙と掲載頁のPDF）送付を、ウェブは公開URLの通知をお願いします。

取材お申込み・お問い合わせ先

DIC川村記念美術館 tel.043-498-2672

広報担当：林、小林、山崎 press@kawamura-museum.com

学芸担当：亀山